

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                |
|-------|----------------|
| 施設名   | 中里どろんこ保育園      |
| 施設所在地 | 東京都清瀬市中里6-23-1 |
| 法人名   | 社会福祉法人どろんこ会    |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「水」  
水に触れて不思議さや楽しさを探求する

<テーマの設定理由>

水遊びや泥遊びなど、普段から水を使用した遊びが多く、「水」が子どもたちにとって身近な存在であった。  
園舎の近くには川も流れているので、ご家庭でも川に足を運ぶことが多い地域であることから、子どもたちの興味関心が自然と水遊びに向いていたため。

## 2. 活動スケジュール

・春～秋  
色水遊び、泥遊び、容器による重さの違い、川遊び  
・冬  
色水遊び、泥遊び、容器による重さの違い、氷遊び  
※日常の遊びのなかで、必要な素材を提供して、探索活動を実施

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【必要備品】  
様々な容器、インク（絵の具）、氷の容器5個  
ライフジャケット30着（子ども用25着・大人用5着）、水タンク2個

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・水遊び、泥遊びは日常のなかで実施した
- ・川遊びは、4歳児が1回。5歳児が5回実施した。5歳児の最終回は、同法人近隣園と合同で川遊びを実施した。
- ・氷遊びでは、1週間のなかで、冬の氷づくり研究を実施した。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

水の冷たさや感触、土と混ぜることによる変化を全身で感じた。戸外活動の苦手な児が、水遊びを通して自ら園庭へ足を運んでいた。川遊びでは、自分たちのできるようになったことを伝え合い、披露する姿が見られた。ライフジャケットで体が浮く感覚を試したり、川の流れに身を任せることの不思議さを体験していた。保育者に励まされることで、苦手な水に触れ合う姿も見られた。氷遊びでは、保育者主導のもと、どの場所であれば水が凍るのか、次の日を楽しみに登園する様子が見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

「子ども自身が直接体験する」ことで、本物の危機意識が育まれることを感じた。子どもたちが危険と感じたことを、自分の言葉で言語化する力が育ったように思う。保護者の安全に対する理解が深まることで、保育においても協力体制が強化されたように感じた。子どもたちの「やってみたい」という気持ちがあつてこそ、良い学びに繋がった。